

インターバンクの声（2017 年 10 月 2 日）

9 月最終営業日となった海外市場の円相場は、強弱まちまちな米経済指標とトランプ大統領が元 FRB 理事と次期 FRB 議長への指名の可能性について協議したとの情報などに神経質な反応を見せた。

ニューヨーク市場の序盤に発表された 8 月の米個人消費支出が事前の市場予想を下回り、特に食料品とエネルギーを除いたコアの数字が伸び悩んだことでドル売りが進んだ。

その後に発表された 9 月のシカゴ購買部協会景気指数が弱ければ 112 円を割り込んでいたかも知れないが、こちらは予想外に上昇したためドルが反発した。

また、ほぼ同時刻に、トランプ大統領とムニューシン財務長官が元 FRB 理事のケビン・ウォーシュ氏と FRB 議長指名の可能性を巡って意見交換したとの情報が伝わったこともドル買いに繋がったようだ。ウォーシュ氏が金融引き締めに前向きで、米金利が上昇したためだ。

大統領は FRB 次期議長の人選についてすでに数回の面談をしたようで、その中には現職のパウエル理事も含まれているようだ。次期議長については今後 2, 3 週間で決断するらしい。中国共産党大会や日本の衆院選挙などが予定される中、誰が次期 FRB 議長になるかで相場に影響がありそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。